

小杉山円満寺 令和四年 大黒天祭号

# 寺だより

新庄市五日町五九一四

TEL 二二一〇四三三

FAX 三三二一〇一六六

発行人：山尾瑛紀

秋が深まりました。午後四時過ぎに、は、あつという間に暗くなってしまう。今年の雪のカメムシ占いは？

はしり

## 波之利大黒天



円満寺の大黒天は波の上に立っておられます。このような大黒天は、日光市に伝わっているそうです。

「波之利」の名称は、奈良時代、勝道上人が日光開山を祈願した折、大黒天が中禅寺湖の波の上に現れて願いを叶えたことに由来しているとのこと。

現在の中禅寺、宝増寺、そして足尾の渡良瀬川橋梁袂の大黒様として祀られているそうです。

円満寺の大黒さんもその流れを汲むのでしょうか。

## 新庄の大江氏

NHK大河ドラマ「鎌倉殿の十三人」をご覧になっていらっしゃるでしょうか。

十三人のひとり、大江広元は奥羽藤原征伐の功績で寒河江の地頭になります。初めは、鎌倉に居ながら地頭を勤めますが、承久の乱のあと、息子親広が直に住んで治めるようになります。大江氏による統治は江戸時代のはじめまで四百年続きます。

その大江氏ゆかりの方々が円満寺の檀家さんにいらっしやいます。大町の大江さんと吉川町の大江さんです。家紋はもちろん「一に三ツ星」です。



「大江家墓」の墓石の側面には、「大江家之墓誌」が漢文で刻まれています。

『余は寒河江城生まれ也 中略

ていちゅう

余は明治十丁丑年十月、圓滿寺住第廿四世大江亮芳師に随従ス 遂

に分家と為るが故に日月其の姓な

かな

る夫 』

もとのぶ

新庄初代となる大江元庸氏は、明治十年に幼くして寒河江から移り住みました。兄である円満寺第二十四世住職亮芳法印を慕ったことです。

明治になって、亮芳法印は寺子屋を開いて近隣の子どもらに読み書きを教えます。元庸氏もその教えを受けますが、後にその手伝いや代用を勤めたりしました。



元庸氏は漢文に優れ、書も得意としていました。境内の内外あちこちの碑に、彼の書を見ることができません。

境内の中では、寺子屋の恩師碑がイチョウの木の下にあります。碑文と書は元庸氏のものです。

一本筆の近くに建っている石碑には自ら作った漢詩が自らの書で刻まれています。

## 大聖歓喜天夏祭り

華水供まつり厳修



去る七月三十一日（日）午前十時より

歓喜天堂にて執り行われました。

華水供・大護摩祈祷で「家内安全・商売繁昌・五穀豊穰・交通安全」を祈念いたしました。

## 子供・夢・花火大会



おかげさまで、三年ぶりに開催することができました。天気と程よい風に恵まれ、きれいな花火を見ることができました。後日、多くの方々から、「いい花火だったにゃあ。」と言っていたいただきました。

多くの皆様に御協賛、御協力いただいたからこそその賜物です。本当にありがとうございました。

シリーズ密教の教え

真言宗の教えの特色を弘法大師の言葉をもとに紹介します。

## その四 「五大皆響」 ぐだいかいきよう

五大に皆響きあり。

五大とは、この世界の構成要素とされる地水火風空のことで、この世の全存在のことを指して五大という。

弘法大師は言葉の根源を音に見る。存在とは音であると。私たちには聞こえなくとも、存在は必ず音を伴うのだという。地球の自転、植物の光合成、血液の流れ。万物の生成は音とともにあった。

この音に心を傾けたところに、真言の真意が開かれる。

## 開山四百年記念

二〇二四年・

令和六年

